



▲坊沢獅子駒踊り

享保年間、困窮した村人のために直訴し、処罰された「五義民」の慰霊のため演じたのが始まりといわれます。



▲阿仁前田獅子踊り

秋田県無形民俗文化財に指定されている阿仁前田の獅子踊り。阿仁前田、米内沢、浦田、荒瀬、比立内は獅子踊り、駒踊り、奴踊りなどをセットとして「獅子踊り」の名称で公開されます。また、本城には奴踊り・棒使いが伝承されています。



▲米内沢獅子踊り

米内沢共勇会が中心となり保存伝承されている「米内沢獅子踊り」（写真は駒踊り）。



▲荒瀬獅子踊り（写真は駒踊り）

荒瀬、比立内では、踊りのほか秋田万才も演じられてきました。阿仁地区では、荒瀬、比立内以外にもこれらの芸能が伝承されていましたが、後継者難などの理由から今では演じられなくなっています。



▲李岱駒踊り

李岱、川井とも駒踊りと奴踊りが演じられます。また、合川地区・福田には「獅子舞」、上杉には「大名行列踊り」が伝承されています。



「川井駒踊・奴踊」（写真は駒踊）



青年会が中心となって保存・伝承されている「比立内獅子踊り」（写真は駒踊り）

市内で広く伝承されている
「獅子踊り・駒踊り・奴踊り」

佐竹侯の、秋田への国替え時の道中芸がルーツ「駒踊り」

本市で最も広い地域に伝えられているのが、獅子踊り、駒踊り、そして奴踊りです。これらの芸能は独立して、あるいは複数が組み合わされて各集落ごとに伝承されてきました。「獅子踊り」は一般に獅子頭をつけた獅子3頭で演じられ、親子あるいは雄獅子と雌獅子の情愛を表現し、五穀豊穡などを祈願するものといわれます。

また、戦国の勇壮な騎馬武者を表現する「駒踊り」は、佐竹侯が常陸の国から秋田に国替えされた際、君主を慰めるため家臣が考案した道中芸がルーツといわれています。これが様々な形で各地域に伝えられ、集落ごとに個性豊かな芸能に発達したようです。

上の写真は比立内の駒踊り。比立内では駒踊り、獅子踊り、奴踊りとも伝承されており、お盆行事は「比立内獅子踊り」と称し、青年会が中心となって毎年14日に公開されています。

比立内のほか、米内沢、浦田、阿仁前田、荒瀬の各集落でも獅子・駒・奴（棒使いなどを含む）が揃う総合芸能として伝承されています。

獅子踊り、駒踊りはいずれも奴踊りや棒使いなどが合わせて演じられ、地区住民を楽しませます。

これらの芸能はかつて鷹巣地区の中屋敷、七日市※、阿仁の萱草、笑内などでも伝承されていましたが、最近では後継者難などから演じられた記録がないようです。

※「上舟木駒踊り」は竜森小、「七日市奴踊り」は鷹巣南小学校の児童が地区住民の指導を受け学校行事などで継承しています。

郷土芸能の保存・伝承に
市民の皆様のご協力を

伝統芸能は地域固有の財産。保存会などが継承に努力していますが、少子高齢化などの影響で保存・継承が難しくなりつつある地域・集落もあるのが現状です。

市では、市民の皆様これらの芸能を広く紹介し、地域の伝統文化を知っていただく機会とするため、9月3日（日）、市文化会館で市内の郷土芸能を一堂に集めた「北秋田市民俗芸能大会」を開催します。

今回紹介した芸能のほかにも、猿倉人形芝居や五味掘餅搗踊りなどあまり目にする事の出来ない芸能が披露されます。ご来場をお待ちしています。（20頁に開催案内掲載）